

西成高校模擬選挙



2015年の法律改正によって、18歳から選挙権を有することになった。しかし、その後2回行われた国政選挙では、いずれも10代の投票率は50%に達しなかった。少子高齢化社会といわれる現在、全有権者（選挙権を持っている人）のうち、10～20代は15%。有権者の過半数は50代以上の人のなのだ。このまま若者が政治に関心を持たなければ、高齢者の意見がより政治に反映されやすくなる状況が生まれ、世代間の格差を生んでしまう。これはシルバーデモクラシーといって、現在、問題視されている日本の課題だ。若者の政治的関心を高め、投票率をあげることが、未来のために必要なのだ。

こうした状況を受けて、西成高校では、毎年3年生を対象に『模擬選挙』を行っている。西成高校の3年生の教員が候補者となり、生徒が実際に模擬投票を行い、その結果をふりかえる活動だ。

今年の模擬選挙では、自分たちの生活と政治とを地続きのものとして捉え、意思ある投票行動へとつなげるために、様々な活動を取り入れた。「現代社会」の授業では、9月から国政についての勉強が始まり、「チャレンジ（総合的な学習の時間）」の授業では、公的医療保険制度や高校授業料無償化・消費税増税・カジノ法案など、日常の中にある政治に目を向けた。11月26日に公示された候補者たちは、放課後の駐輪場にて街頭演説を行い、各政党のマニフェストを記載したピラを配った。

演説に聞き入る生徒、政策について質問する生徒、演説に対して賛成／反対の声をあげる生徒…。自分事として政治を捉えようとする姿がたくさん見られた。あわせて発足した選挙管理委員会では、選挙の公正な運営をめざして、各クラス代表生徒が投票のシミュレーションを行った。受付・名簿対照・投票用紙交付・立ち合いと、実際の選挙さながらの働きをしてくれることになる。

12月4日（火）のHRでは、各政党のマニフェストについて、テーマ（社会保障、消費税、軍事、原発）ごとにメリット／デメリットを検討した。自分にとっての損得だけではなく、20年、30年後の社会を考え、他府県の人の生活を想像し、熱く議論を交わす姿が印象的だった。

こうした生徒たちの姿を見ていると、ふと思う。生徒たちは政治に興味が無いわけでは、決してない。学びの機会を十分に生かして、自分たちの生きる社会について考える力を確かに伸ばしている。

政策がよくわからない、ということももちろんある。それでも1票を投じることには価値がある。投票率があがるほど、政治に関心を持った有権者が確かにいるというメッセージになるからだ。もしも、どうしても決めかねたら、白票でも良いじゃないか！

候補者たちの演説、所属政党の党首応援演説と、まだまだ選挙活動は続く。7日と10日は期日前投票も実施される。そして、11日には西成高校模擬選挙の投票が行われる。たくさんの票が集まることを期待している。

生徒の意見(一例)

消費税増税について

メリット

- ・財政赤字がなくなる。
- ・社会福祉制度が充実される。
- ・小中高大学の学費が軽減されるのではないかな。

デメリット

- ・買っていたものが変えなくなる（貧困が増える）。
- ・失業者が増える。
- ・所得が上がらないのに税金だけ上がっても暮らしは豊かにならない。
- ・住宅ローンや借金を抱えている人はより生活が苦しくなる。

候補者に質問したいこと

- ・社会福祉制度具体的にどのようなように充実されるのか。
- ・所得の低い人の軽減が本当にできるのか。
- ・経済政策とはどのような政策なのか。
- ・そのような政治で国民は本当に納得するのか。

